



福井が好きだから「伝えたい・残したい」、福井の宝もの。

【特集】「イターン、勝山への移住

目指すは楽しい農業

つらかったら

おもんないでしょ？



紐  
SOCIAL  
PAPER  
KUMIBITO

No.14  
2015

都会を抜け出し、地方で暮らす。

今までと違った働き方、

つながり、仲間、

そして新しい自分を求めて。

恐竜の郷、

福井県勝山市。

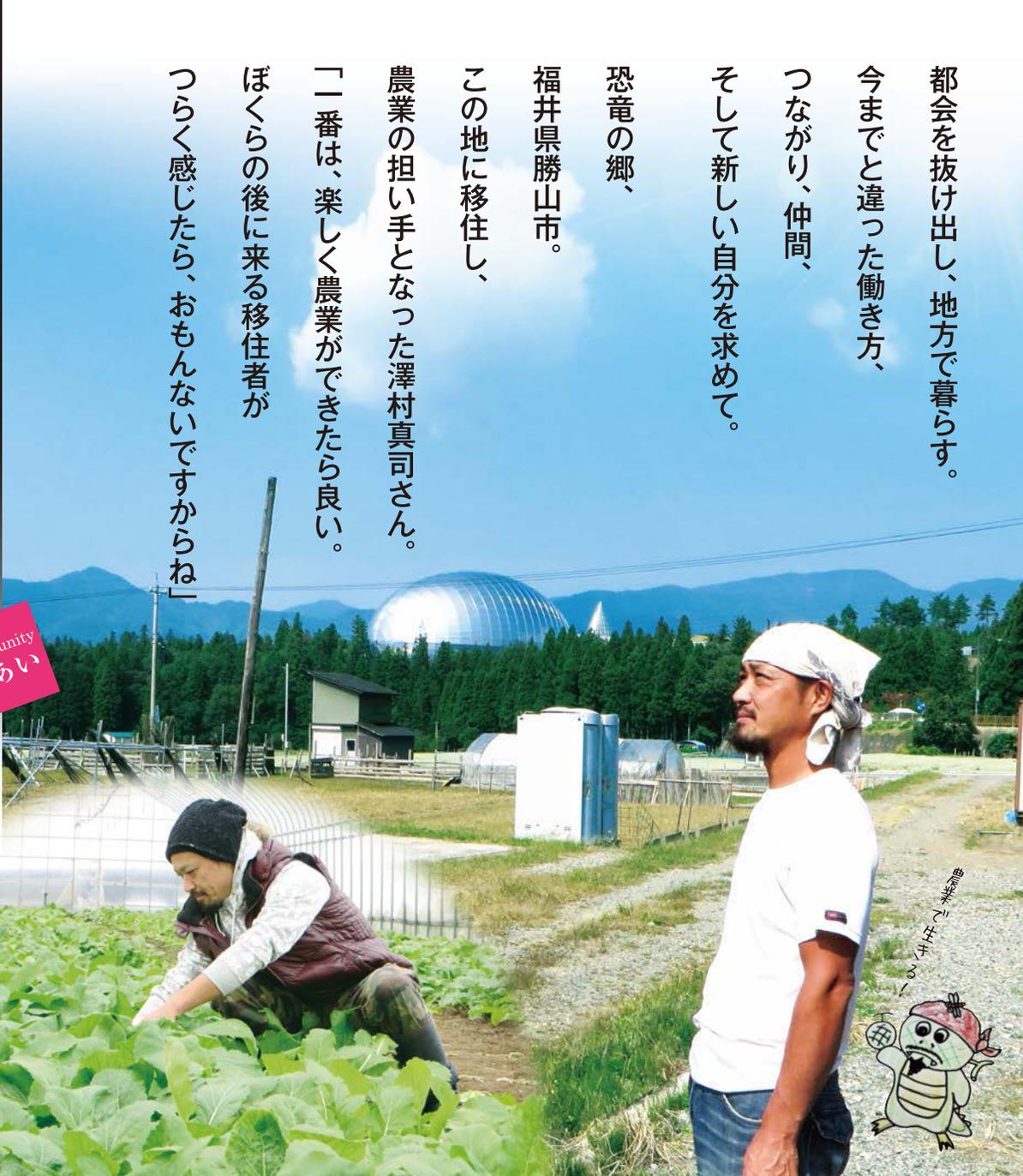
この地に移住し、

農業の担い手となった澤村真司さん。

「一番は、楽しく農業ができれば良い。

ぼくらの後に来る移住者が

つらく感じたら、おもんないですからね」



「二で農業をすると決めたのは  
二二に暮らす師匠に惚れたから

Community  
であいい



澤村さんは2010年、大阪の精密機器  
会社を辞めて、勝山市に移住。有機農業に

挑戦して2年目を迎える。移住のきつ

かけは「都会で会社の歯車として

働いても先が見えない。自分でや

れる仕事が見たい」そんな時、北

陸での農業支援の講演を機に、大

師匠「長谷川弘さんと出会う。

澤村さんは「場所」にこだわり

があったわけじゃない」と言う。

師匠に出会えたから、ここ勝山で農業が

できるのだ、と。



# 勝山をおもしろくするのは 農業男児の新しい一歩



澤村さんはマスクメロンをはじめ、トマト、勝山水菜などの野菜を生産している。住む場所から農業のイロハまで、全て師匠が面倒をみてくれた。それでも「どう活かすかは本人次第」と長谷川さん。師匠の指導するメロンは「甘い、が、地方へ移住して農業をする、という現実はなかなか難しいもの。農業が軌道に乗るまでは、他の農家を手伝ったり、季節に合わせた副業をこなすこともある。また、その土地になじむまで、地元民から厳しい言葉をもらう事も珍しくない。それでも、自らその輪に入り、人とのつながりを大切にしたいからこそ澤村さんの今がある。



「田舎で農業をやりたい人にどんどん入ってきてほしい。そういう仲間と一緒にやりたい」  
「ニホンミツバチで受粉させる純国産のメロンづくり」や「夏場に不足するミントの栽培」「空き蔵のライブハウス化」など。「そこらへんで言うたら笑われますけど…」と澤村さんは言うが、彼の目標は若さに溢れ、楽しい。人が出ていくばかりの地方こそ、若者が輝ける場所。そこに住み、地場の産業に取り組めば、新たな発想や工夫次第でどんどん活躍できる。澤村さんはそんな田舎暮らしの新たな姿を作り出そうとしている。





久保 幸治さん・つたえさん  
ヤギ飼い



清水 秀一さん  
ひょうたんランブアーティスト



本田 隆幸さん  
養蜂家



渋谷 太郎さん  
自営業



ヤギ  
相棒

ここで暮らす“人”に惚れて  
どんどんつながる、人間模様とメロンの網目

Community  
なかま



市原 進さん  
何でも屋



佐々木 哲平さん  
農業見習い



坂川 美保さん  
澤村農園 看板秘書



荒井 保次さん・悦子さん  
BLUES BAR ねこや店主



長谷川 弘さん  
農業家(師匠)



### Profile 澤村 真司

1970年、大阪府吹田市生まれ。2010年、19年務めた精密機器のサービスエンジニアを退職し、福井県勝山市に移住。修業期間を経て2013年、マスクメロンや地場野菜などの農業経営者として独立。地域の昔からは「メロンちゃん」の愛称で親しまれている。



取材……宮本隆行 Art Director……三嶋良晴  
撮影……高橋正勝 写真提供……澤村農園  
発行元 大一印刷株式会社  
〒910-2142 福井県福井市前波町17-6-1  
TEL.0776-41-3741 FAX.0776-41-2442  
企画制作・編集  
コミュニティサポート50プロジェクト

